慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究 第四十九巻(昭和五十一年自一号至十二号)総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1976
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.49, No.12 (1976. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19761215-0136

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究　第四十九巻（昭和五十一年自一号至十二号）総目次

論説

	号数	頁	通頁	執筆者
民訴七一条おぼえ書	一	九	九	伊東　乾
住民訴訟の諸問題——手続規定を中心として——	一	二三	二三	金子芳雄
女子受刑者の刑事手続に関する（意識）調査から見た女性犯罪と女性法曹の役割	一	四一	四一	中谷瑾子
日数罰金制の意義と現実——西ドイツの新刑法典を中心にして——	一	六一	六一	宮澤浩一
訴訟上の和解の解除と旧訴の復活について	一	八七	八七	石川　明
商法六六七条と自賠法一六条	一	一〇五	一〇五	倉沢康一郎
虞犯覚書	一	一二三	一二三	坂田　仁
刑事裁判と常識——松川事件裁判の教訓——	一	一四一	一四一	野阪滋男
二段階説の史的展開に関する一考察	一	一六三	一六三	藤原淳一郎
一事不再理効の客観的範囲についての一考察	一	一八一	一八一	筑間正泰
被害者の権利と被害者学——新しい被害者学の試み——	一	二〇五	二〇五	諸澤英道
本案の終結宣言について	二	一	二四三	ゲルハルト・リュケ　石川明訳
西ドイツ民事訴訟法における訴訟終了宣言の制度の生成について（一）	二	一八	二六〇	坂原正夫
オーストラリア憲法における州際通商条項	三	一	三六五	平良

南カリフォルニアにおける日系人の政治意識……三　一七　三八一　鶴木　真
——登録投票者率を中心として——
西ドイツ民事訴訟法における訴訟終了宣言の制度の生成について（二・完）……三　六一　四二五　坂原正夫
投票行動の計量分析……四　一　五一五　堀江湛　前田寿一
議決権行使を目的とする株式の資格譲渡……四　二六　五四〇　加藤修
国連朝鮮問題の十年……五　一　六二七　神谷不二
争点の操作と政党支持……五　二八　六五四　堀江湛　加藤秀治郎
ASEANの研究……六　一　七三九　松本三郎　殷寅永
——その発展過程と国勢の分析——
社会民衆党の中国国民革命への対応……七　一　八六七　中村勝範
——南京政府成立まで——
現代民主主義における〈公共性〉の思想的問題……七　三〇　八九六　奈良和重　寺島俊穂
F・D・ローズヴェルトと日本（一九三三—三七）……七　六一　九二七　片桐庸夫
——ローズヴェルトの対日態度形成を中心として——
政界再編期にあるアメリカ合衆国の政党……八　一　九七九　太田俊太郎
中世イタリアの都市コムーネと条例制定権（ius statuendi）理論（一）……八　三〇　一〇〇八　森征一
政治科学批判への一視角……九　一　一〇七一　内山秀夫
中世イタリアの都市コムーネと条例制定権（ius statuendi）理論（二）……九　二四　一〇九四　森征一
和解調書作成上の瑕疵について……一〇　一　一一五七　石川明
「新中間層」論序説……一〇　一二　一一六八　川合隆男
——分化と分解の狭間に立つ変革期における新中間層——
中世イタリアの都市コムーネと条例制定権（ius statuendi）理論（三）……一〇　五二　一二〇八　森征一
訴因をめぐる理論と実際……一一　一　一二七一　青柳文雄
中世イタリアの都市コムーネと条例制定権（ius statuendi）理論（四・完）……一一　一九　一二八九　森征一

公益事業の労使関係と労働法……一二　一　一三五一　峯村光郎
——争議行為の制限禁止の問題点——

資料

会社法の問題点と改正意見……二　七一　三一三　商法研究会
村上義一文書（満鉄関係記録）目録……四　四九　五六三　村上義一文書研究会
社会民衆党昭和二年党大会提出議案……五　五三　六七九　中村勝範
執行手続における当事者能力および訴訟能力の審査……五　七九　七〇五　R・G・ホフマン　栂善夫訳
ヘーン警察大尉「千葉県巡回復命書」……六　七一　八〇九　手塚豊
『ディナミック』総目次と解説……一二　三三　一三八三　中村勝範
アメリカ政治学会年次大会提出論文目録一九五六年～一九六八年……一二　五五　一四〇五　内山秀夫　原田達雄

判例研究

〔商法〕一五四　株式会社でありながらその実質は二名の取締役の共同事業にすぎないものと商法二六五条、二六九条……二　八七　三二九　宮島司
〔労働法・経済法〕一〇七　偽装解散と親会社の雇用契約上の地位……二　九三　三三五　松岡浩
〔最高裁民訴事例研究〕一三一……二　一〇一　三四三　伊東乾　平岩正史
〔刑訴判例研究〕一……二　一〇六　三四八　青柳文雄　久我泰博
〔商法〕一五五　設立中の会社との営業に関する雇用契約と発起人の責任……三　一一四　四七八　小宮山宏之
〔刑法〕五〇　戸籍簿上夫になつている被告人の妻である女性に対する詐欺罪に刑法二五一条、二四四条の適用を否定した事例……三　一一九　四八三　中谷瑾子　吉田健司
〔最高裁民訴事例研究〕一三二……三　一二五　四八九　西岡清一郎　柴有子
〔刑訴判例研究〕二……三　一三一　四九五　青柳文雄　橋本雄太郎

〔商法〕一五六　代表取締役の業務執行と平取締役の監視義務……四　九五　六〇九　大野直治
〔最高裁民訴事例研究〕一三三……四　一〇〇　六一四　石渡哲
〔商法〕一五七　株式会社の全財産の任意競売と商法二四五条の適用の有無……五　九五　七二一　加藤修
〔最高裁民訴事例研究〕一三四……五　九九　七二五　伊東乾
〔商法〕一五八　他人に自己の氏名を使用して手形行為をすることを許諾した者と商法二三条……六　一〇九　八四七　本田耕一
〔最高裁民訴事例研究〕一三五……六　一一三　八五一　米津昭子
〔商法〕一五九　悪意の民事保証人が割引手形を買戻した場合と人的抗弁の切断……七　九九　九六五　西沢宗英
〔最高裁民訴事例研究〕一三六……七　一〇四　九七〇　近藤龍司
〔商法〕一六〇　融通手形の振出人・受取人間の法律関係……八　七一　一〇四九　宗田親彦
〔最高裁民訴事例研究〕一三七……八　七六　一〇五四　黄清渓
〔刑訴判例研究〕三……八　七九　一〇五七　伊東乾
〔商法〕一六一　表見代表取締役と商法二六六条の三の責任……九　五九　一一二九　安冨潔
〔労働法・経済法〕一〇八　放送会社楽団員の労働者性……九　六四　一一三四　大野直治
〔最高裁民訴事例研究〕一三八……九　七一　一一四一　松岡浩
〔商法〕一六二　株主総会の決議により招集権者として指定された者が招集した総会における決議の効力……一〇　九〇　一二四六　栗田陸雄
〔最高裁民訴事例研究〕一三九……一〇　九三　一二四九　高鳥正夫
〔商法〕一六三　個人会社と商法二六五条・共通の代表取締役による会社間の取引と民法一一五条……一一　五三　一三二三　石渡哲
〔最高裁民訴事例研究〕一四〇……一一　五八　一三二八　倉沢康一郎
〔商法〕一六四　小規模、閉鎖的会社の代表取締役が有効な取締役会決議に基づかないでなした新株発行の効力等……一二　一一九　一四六九　西沢宗英
〔最高裁民訴事例研究〕一四一……一二　一二五　一四七五　宮島司
片山克行

紹介と批評

ハワァズ・タルキ著『国家を持てなかつたパレスチナ人の苦悩』……二　一一八　三六〇　鶴木　真
川合隆男著『社会的成層の研究――現代社会と不平等構造――』……三　一四三　五〇七　原田　勝弘
瀬在良男著『行動論的価値論の研究』……四　一〇七　六二一　霜野　寿亮
ハンス・ハイナー・キューネ　宮沢浩一共訳『日本少年法』……五　一〇四　七三〇　鄭　鐘勗
ゲルハルト・シムソン著『スウェーデン刑法典一九七六年』……六　一一八　八五六　宮沢　浩一
H・D・ダンカン著　中野秀一郎・柏岡富英訳『シンボルと社会』……六　一二二　八六〇　内山　秀夫
中村菊男著『政治文化論』……七　一〇九　九七三　内田　満
ジョー・オールマン著　内山秀夫、喜多靖郎、宮沢健、坂本勝、柴田平三郎訳
『創造の政治学』……八　八七　一〇六五　根岸　毅
ミルトン・フリードマン著　熊谷、白井、西山訳『資本主義と自由』……九　七五　一一四五　田中　勝
石堂清倫・堅山利忠編『東京帝大新人会の記録』……一〇　九八　一二五四　酒井　範
P・カラマンドレーイ著　小島武司・森征一訳『訴訟と民主主義』……一一　六三　一三三三　風間　文
マイケル・ブレーカー著　池井優訳『根まわし、かきまわし、あとまわし』
――日本の国際交渉態度の研究――……一二　一三〇　一四八〇　衛藤　鶴正
H・G・ゴルスキー著『西ドイツ税務訴訟における総額主義の検証』……一二　一三七　一四八七　木村弘之亮　瀋　寿吉

特別記事

石渡哲氏学位請求論文審査報告……一〇　一〇四　一二六〇
黄清渓氏学位請求論文審査報告……一一　六八　一三三八
細川哲氏学位請求論文審査要旨……一一　七二　一三四二